

ブドウ糖添加による後処理は

チューリップ切り花の香り保持期間を長くする

チューリップには香りの良い品種もありますが、切り花にすると香りが長持ちしなくなるため、香りを楽しむことができませんでした。そこで、フルーティな香りのチューリップ品種「サネ」をモデルとして切り花の香り保持期間を向上する技術を検討し、輸送後の生け水に香り成分の基質となるブドウ糖を添加することで、切り花の香り保持期間が長くなることを明らかにしました。

☆ 技術の概要

1. 一般にチューリップ切り花には、日持ち向上のため輸送前にエテホンを含む市販の品質保持剤（クリザール BVB エクストラ）が処理されます。エテホンから発生するエチレンには花の香りを抑制する作用が知られていますが、この前処理はチューリップ切り花の香りに影響しないことがわかりました。さらに、輸送後に切り花の生け水に1%のブドウ糖と0.05%のイソチアズリン系抗菌剤（CMIT/MIT）を後処理することで、切り花の香り保持期間が無処理の約2倍に長くなりました（左図）。
2. 前処理によって得られた切り花の日持ち延長効果は、後処理で阻害されません（右図）。

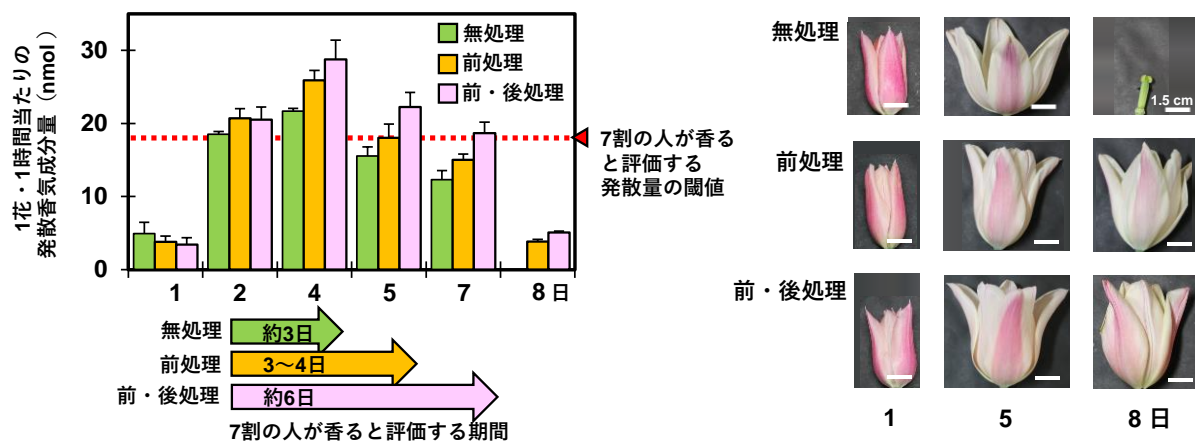


図 チューリップ品種「サネ」切り花の発散香気成分量（左図）と花姿（右図）の経日変化

無処理：輸送前に水道水で3時間水あげし、輸送後に蒸留水に生け、23℃で維持した。前処理：水道水の代わりに0.5%クリザール BVB エクストラ（クリザール・ジャパン）で水あげした。前・後処理：前処理して輸送後に、1%ブドウ糖と0.05%イソチアズリン系抗菌剤（CMIT/MIT；Rohm & Haas）を生け水に加えた。値は平均値±標準誤差（n=3）

☆ 活用面での留意点

1. 前処理なしで後処理を行うと、花首が軟化して折れやすくなる場合があります。
2. 詳しくは農研機構 野菜花き研究部門（TEL：029-838-6606）にお問い合わせください。  
（農研機構 野菜花き研究部門 野菜花き品種育成研究領域 岸本久太郎）

本研究は生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」の支援を受けて行われました。